



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

しらこぼと

2017.11

No.404

日本野鳥の会 埼玉

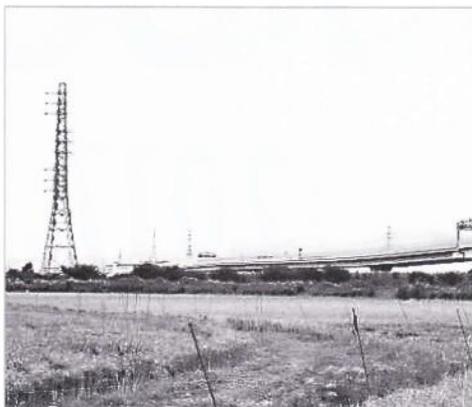
S H I R A K O B A T O



食べて支える < 生物多様性 >

—湘南タゲリ米の里を訪ねて— 小林みどり(さいたま市)

私たちは毎日、何かを食べています。意識してはいないかもしれませんが、「食べることによって」生きています。この「食べる」という必要不可欠の行為が、生物多様性を保つことにつながったら、素晴らしいと思いませんか？



小雨まじりの秋の一日、ある探鳥会に参加した。JR相模線寒川駅から向かう目的地は、「湘南タゲリ米の里」と呼ばれる水田地帯である。主催は日本野鳥の会神奈川支部と三翠会(さんすいかい)。三翠会は「田んぼにいのちのにぎわいを！」をモットーに、地元の20数件の農家とともに調査や保護活動を行うグループで、今年設立17周年を迎えた。
(上写真:「タゲリ米の里」風景)



鳥を観察しながら、「タゲリ米の里」にたどり着く。ヒガンバナに縁取られた歩道の両脇に、稲穂の海が広がる。目路の限りまで、と言いたいところだが、北と東を高速道路に遮られている。かつて、この地に多数飛来して

いたタゲリは、高速道路が出来て以来、ほとんど見られなくなった。それでも三翠会は、タゲリをシンボルとして活動を続けている。
(左下写真:胸につけてるマークは「タゲリ」)

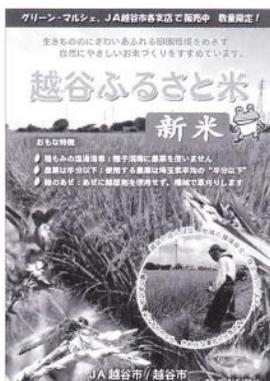
その活動の一つが魚道作りである。「タゲリ米の里」を潤す小出川。ここに住む魚の中には、水田へ遡上して産卵する種がある。その卵や稚魚は、鳥たちの大切な食料になる。川からの遡上は、取水堰が使われているからこそ可能である。しかし河川改修により、近々堰が使えなくなり、以降はポンプアップ方式に代わるという。ポンプには詰まり防止のフィルターが付いているため、魚たちの道は閉ざされる。

そこで三翠会は、田圃からの排水路を遡上させることを試み、いくつかの魚道を設けた。排水路を緩やかな斜面にして、そこへ丸石を埋め込んだり、高さの異なる板を水路に並べて水がジグザグに流れるようにしたり。魚が休みながら、少しでも楽に遡上できるように、様々な工夫が凝らされた。これらの水路の働きにより、「タゲリ米の里」では大きなナマズの遡上も確認されている。春が終わる頃には、何万ものナマズの稚魚が田圃で泳いでいるという。

ここで作られている米は「キヌヒカリ」という品種と古代米である。収穫された米は「湘南タゲリ米」というブランドで販売される。タゲリ米を使った「タゲリ米焼酎」や饅頭、あらねなど色々な商品も作られている。現在は、洋菓子への利用を開発中であるという。米粉は小麦粉よりも油分を吸収しにくいので、ヘルシーな洋菓子が出来そうだ。

ここで全国に目を向けてみよう。タゲリ米の他にも、生物多様性に配慮した米がいろいろ作られている。日本野鳥の会の通販カタログには5種類が紹介され、そのうち3種類は、「チュウヒ米」(秋田県)、「コウノトリ育むお米」(兵庫県)、「朱鷺と暮らす郷」(新潟県)と、鳥の名前を冠した商品である。ちなみに我が家では、茨城県稲敷市の「オオヒシクイ米(現在は「里山米」と改称)」を10年以上愛用している。

埼玉県内では、かつてさいたま市桜区内の



水田でシロハラクイナの繁殖が確認された際、「シロハラクイナ米」が作られた。

また現在、JA越谷市では鳥の名前こそついていないが、生物多様性に配慮(「あぜは除草剤を使用しないで機械で草刈

り」など)した田圃でつくられた「越谷ふるさと米」を販売している。

ところでこれらの米は、5kg 2,100~4,000円。かなり高価であるが、是非、積極的に取り入れて欲しい。あなたが応援したい地域や鳥にゆかりの米を、ぜひ食べていただきたい。探鳥旅行のために、食費を節約している人にはとんでもない話かもしれない。しかし、いつも楽しませてくれる鳥たちに、恩返しをしたいと思ったことはないだろうか? 旅行の日程を1日減らせないだろうか? 宿泊費1泊分でこれらの米が10kg買える。たくさん売れば、活動に協力してくれる農家が増え、生物多様性に配慮した農地が増える。これは鳥への恩返しにつながる。「タゲリ米の里」が広がれば、再びタゲリがやってくるかもしれない。

この日、案内をしてくださった神奈川支部の樋口氏の言葉が、今でも頭から離れない。

「生態系を支えているのは農家。農家を支えているのは私たち消費者。」

『サンデー毎日』のオオタカ営巣写真掲載に意見書を送付しました

同誌7月23日号に、東京23区内におけるオオタカの営巣写真が大きく掲載されました。当会幹事から指摘を受け、日本野鳥の会東京、本部自然保護室と連絡を取りながら、当会としての対応を役員会で話し合いました。

地元である東京が8月10日付で「営巣中の巣を撮影すると繁殖放棄もありうるので慎重な配慮が必要。(オオタカは希少種なので、特に)」等と指摘する意見書を、毎日新聞社に送りました。

毎日新聞東京本社愛読者センターからは8月18日付で本部自然保護室に「ご指摘をいただいた点を基に、どうすれば読者の理解を助

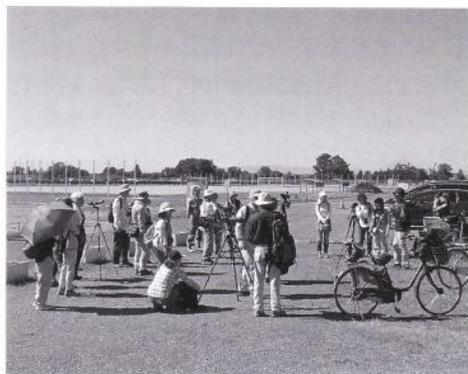
け、かつ自然環境保全に役立つ写真報道ができるのかを社内で議論させていただきます。私どもの基本的な指針は、撮影によって野鳥が繁殖を放棄してしまうなど、逆に環境に悪影響を与えてしまうような行動は厳に慎むべきだということです」等との返信が届きました。

さらに当会は9月4日付でサンデー毎日編集部に、「育雛中の写真そのものを、貴誌のような影響力の大きい媒体が世間に公開することは、多くのアマチュアカメラマンに悪い影響を与えるおそれがある」等の意見書を、送りました。(海老原美夫)

2017年秋 シギ・チドリ類調査報告

日本野鳥の会埼玉 調査部

日 時： 2017年9月18日 9:30～11:35
場 所：さいたま市 大久保農耕地
天 候：快晴



台風の影響で悪天候が心配されましたが、台風は北海道付近まで進んだため、高気圧が西日本から東日本を覆いました。そのため天候も回復し、気温も30℃を越える真夏日となりました。また、連休の最終日にもかかわらず、23名もの協力が得られました。ありがとうございました。

稲刈りもほとんど終わり、雨のため田は湿っており、シギ・チドリ類の調査にはよい環境でしたが、全体の種数、個体数は3種 24羽にとどまりました。昨年と比較すると、種数は1種増えたものの、個体数では33羽少なくなりました。これは、タシギが29羽少なかったことや、As区でシギ・チドリ類が観察されなかったことが大きな原因です。

下の表は過去10年間の調査結果をまとめたものです。それ以前は「しらこぼと」2012年12月号(No.344)をご覧ください。

※表の中の「タシギ属不明種」はタシギ以外のタシギ属の鳥ですが、種数には入れませんでした。

(石井 智)

秋のカウント結果 (大久保農耕地)

年	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
調査日	9/15	9/21	9/20	9/19	9/17	9/23	9/15	9/23	9/19	9/18
天候	曇り	曇り	曇り	晴れ	晴れ・曇り	曇り	曇り	晴れ	雨	快晴
1 ムナグロ	70	8					17	1	13	5
2 オオジシギ										2
3 タシギ	4	9	5	7		21	23	1	44	15
4 オグロシギ						1				
5 イソシギ	1									
タシギ属不明種			1			7	4	6		2
合計	75	17	6	7	0	29	44	8	57	24

※2013年の本調査(9/16)は台風のため中止したので、参考調査の記録を載せました。



野鳥情報

蓮田市西城沼公園 ◇5月23日、ツミ♀若鳥が上空を飛び回っていた。ホオジロ♂が囀っていた。公園の林床でコジュケイ1羽が採餌していた。6月9日午前6時55分、コジュケイが突然鳴きだした。6月20日、電線に3羽のツバメがとまっていた。そこに2羽が加わった。先の3羽が翼を振るわせて餌乞い行動を見せた。5羽の雛の内、3羽はカラスの襲撃前に巣立っていたようだ。6月22日午前6時15分、ここでは珍しく、電線でホオジロが囀っていた。6月28日、西沼でカワセミが数回ダイビングを繰り返したが、獲物は捕れず飛び去った。今季は別の場所で繁殖しているようだ。7月5日、ホオジロ♂がアンテナで囀っていた。ムクドリが電線に80羽並んだ。カワラヒワ1羽が電線で囀っていた。ダイサギ1羽が上空通過。7月10日、ハシブトガラスとハシボソガラスの混群が60羽、収穫後放置されたキュウリを漁っていた。ツバメ5羽が上空を飛翔。大きな個体と小さな個体があった。7月12日、コジュケイが屋敷林で囀っていた。シジュウカラが数羽檜木で枝移り。中に巣立ち雛が混じっていた。7月25日、ツバメ7羽が電線にとまっていて、尾羽が長い個体と短い個体があった。ハクセキレイ1羽が耕した畑で採餌。7月31日、ツバメが5羽、西沼で飛びながら吸水。エナガが7～8羽、柿の木で採餌。コジュケイ2羽が耕作していない畑を横切った。煤けて汚れたスズメが数羽、電柱に止まっていた。8月7日、近頃、ホオジロ♂が囀る。しかし春の囀りと随分違って聞こえる。8月11日、西沼でカワセミ♂。杭の上から数回ダイビングするも失敗。水が濁ったせいだろうか？ 8月14日、サシバが上空を旋回。2回ほど回った時、どこからともなくツミ♀と思われる鳥が現れ、サシバに襲いかかった。2～3度の絡み合いののち、両者とも屋敷林に消えた。サシバは今季、ここでの初認（長嶋宏之）。

幸手市中川河川敷 (5439-0691、5439-0690)

◇6月7日、カルガモ1羽、アオサギ1羽、コサギ1羽、ゴイサギ2羽、カワウ1羽、オオタカ2羽、チョウゲンボウ2羽、セグロセキレイ3羽、ハクセキレイ4羽、ツバメ17羽、ヒバリ1羽、ホオジロ2羽、カワラヒワ1羽（荒川貴之）。

吉見町吉見総合運動公園 ◇6月7日、キジのつがい1組と♂が4羽以上確認できた。セッカが繁殖しているようだ。モズのつがいを確認、繁殖しているようだ。ホオジロやガビチョウが囀っていた。他に、ヒバリ、オオジュリン、ウグイス、カワラヒワ、ヒヨドリ、トビ、ノスリ等（長嶋宏之）。

さいたま市西区荒川左岸河川敷 ◇6月11日、健保グラウンド隣で、稲から上半分が見えて茶色でくちばしが黄色いサギでした。図鑑で調べたところムラサキサギが一番近く思えました（大村みどり）。

桶川市舎人調整池 ◇6月12日午後5時17分、カルガモ親鳥1羽、子ガモ7羽。子育てシーズン初認。干上がったヨシの岸辺で採餌（小貫正徳）。

さいたま市岩槻区大戸 ◇6月18日、水田にヨシ原が点在する環境で、遠くをヨシゴイが飛んだ（鈴木紀雄）。

さいたま市見沼区片柳 ◇6月28日、ダイサギ2羽とともにアマサギ1羽。この辺りでアマサギを見ることは少ない（鈴木紀雄）。

小鹿野町日向大谷～清滝小屋 ◇6月24日、イカル、シジュウカラ、ヒガラ、コゲラ、アカゲラ、オオルリ、キビタキ、コルリ、ミソサザイ、アオバト、ツツドリ、ホトトギス、ジュウイチ、クロツグミ、ヤブサメなど。夜間にトラツグミ、ヨタカ、フクロウの声。残念ながら、コノハズクの声は聞かれなかった（鈴木紀雄）。

白岡市柴山沼 ◇6月30日、ホシハジロ♂1羽が泳いでいた。越夏個体かと思ったら、左の翼に怪我をしていた。他に、カルガモ、ツバメ、ヒバリ、チュウサギ、アオサギ、キジ♂、ムクドリ等（長嶋宏之）。

蓮田市山ノ神沼 ◇6月30日、チョウゲンボウが獲物を掴んで飛んで行った。水辺でコ

サギが1羽、餌を探していた。ムクドリ50羽士の群れが地面で採餌。群れの中に巣立ち雛もいた。他に、ゴイサギの成鳥と幼鳥、カルガモ、ツバメ等(長嶋宏之)。

蓮田市貝塚 N36.0176 E139.6455 ◇6月30日、田圃で亜麻色のアマサギ(下写真)が2羽とダイサギ5羽が程よい間隔で採餌(長嶋宏之)。



川崎市伊佐沼 ◇7月2日、コアジサシ約15羽。カイツブリの家族連れが見られる。8家族位いそう。他にカワウ、ゴイサギ若鳥など(鈴木紀雄)。

さいたま市桜区田島 ◇7月6日、奪った雛らしいものをくわえたハシブトガラスに体当たりの様相で必死に追うオナガ。ほんの数秒間であったが、自然界の厳しさを見た瞬間だった(陶山和良)。

さいたま市見沼区膝子 ◇7月10日、ダイサギ2羽、チュウサギ2羽、コサギ若鳥1羽。近頃少なくなったコサギを見て、少しほっとする。7月20日、休耕田でダイサギ1羽、クサシギ1羽(鈴木紀雄)。

伊奈町小室 ◇7月11日、水田でダイサギ6羽、チュウサギ6羽、コサギ6羽、コチドリ11羽など(鈴木紀雄)。

蓮田市駒崎 ◇7月11日、ハヤブサ若鳥がドバトを襲うも失敗。鉄塔にとまった(鈴木紀雄)。

春日部市倉常 ◇7月19日、イソシギ1羽、クサシギ2羽、コチドリ20羽など(鈴木紀雄)。

幸手市中川河川敷 (5439-0691) ◇7月21日、アオサギ2羽、ダイサギ1羽、ゴイサギ2羽、カルガモ8羽、オオタカ1羽、チョウゲンボウ1羽、ハクセキレイ2羽、セ

グロセキレイ1羽、ホオジロ3羽、シジュウカラ1羽、カワラヒワ1羽など(荒川貴之)。

さいたま市見沼区膝子 ◇7月21日、通勤途中に車内から電線にとまるコムドリ♂1羽を見る。今季初認(鈴木紀雄)。

熊谷市(旧大里町)玉作 ◇7月27日午後12時20分頃、みどりの道沿いの電線にサシバ淡色型。今日はカラスがいないなあと思ったら、電線にサシバがいた。かなり白っぽい個体だった(大畑祐二)。

さいたま市中央区さいたま新都心(5339-6571) ◇7月27日、2週間ほど前に犬の散歩の際に見つけ、それからカメラを持ち歩きようやく撮影できました。白い羽が混ざっていますが、カラスだと思います。8桁のメッシュコードの範囲はカラスを見た地域と一部しか一致しません(鬼山正昭)。

蓮田市黒浜 ◇7月29日、ウグイスが囀っていた(長嶋宏之)。

鴻巣市大間一丁目 ◇8月9日午前7時30分頃、ショウドウツバメが何羽か上空を飛び交う。一昨日が立秋。今季初認。9月8日午前7時50分頃、上空に淡色系のハチクマが1羽。旋回しながら、ゆっくり西方に遠ざかって行った(榎本秀和・みち子)。◇9月13日午前8時40分頃、トビ1羽、サシバ2羽、チョウゲンボウ1羽のタカ柱が立つ(榎本秀和)。

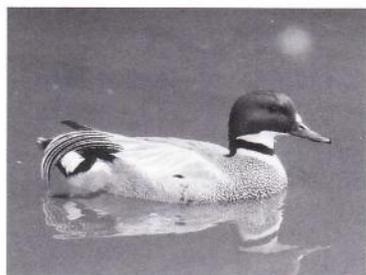
さいたま市浦和区(5339-6572) ◇8月19日午前7時~8時、芝川の新大道橋上流三崎公園周辺でカワセミ、ツバメ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、オオヨシキリ、シジュウカラ、ホオジロ、スズメ、ムクドリ、コムクドリ、カワウ、ダイサギ、ゴイサギ、カルガモなど。コムクドリはムクドリに混じって10羽程度。主に電線にとまる(益子秀行)。

表紙の写真

スズメ目ムシクイ科ムシクイ属モリムシクイ
昨年11月9日、幸手市内で撮影。ヨーロッパなどからの迷鳥ですが、ここでも元気に虫を探していました。 榮 武男(春日部市)



行事案内



ヨシガモ(プリングマン ウィリアム)

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。集合時間に集合場所にお出かけください。初めての方は、青い腕章の担当者に「初めて参加します」と声をおかけください。参加者名簿に住所・氏名を記入、参加費を支払い、鳥のチェックリストを受け取ってください。鳥が見えたらリーダーたちが望遠鏡で見せてくれます。体調を整えてご参加ください。

参加費：中学生以下無料、会員 100 円、一般 200 円。

持ち物：筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋。持っていれば、双眼鏡などの観察用具もご用意ください。なくても大丈夫です。

解散時刻：特に記載のない場合正午から午後 1 時ごろ。

悪天候の場合は中止、小雨決行です。できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。実際に時刻表が変更される場合もあります。ご注意ください。

行田市・利根大堰探鳥会

期日：11月3日(金・祝)

集合：午前 10 時、秩父鉄道 行田市駅南口。

または午前 10 時 30 分、行田市見沼元塚(もとりのり)公園駐車場。

交通：秩父鉄道 羽生 9:36 発三峰口行き、または秩父鉄道 熊谷 9:50 発羽生行きに乗車し、行田市駅で下車。行田市駅南口から 10:08 發行田市内循環バス北東循環コース(左回り)に乗車し「老人福祉センター」で下車。元塚公園駐車場まで徒歩 1 分。

解散：元塚公園で午後 2 時ごろの予定。

担当：入山、近藤、佐野

見どころ：カモを中心に水辺の鳥達を観察します。上を向いたら猛禽が飛んでいるかも。

その他：秩父鉄道はスイカ、パスモ等が使用できません。切符を買ってください。昼食持参。

上尾市・丸山公園探鳥会

期日：11月4日(土)

集合：午前 7 時 40 分、丸山公園南口入口付近。

交通：JR 高崎線 上尾駅西口③番バス乗り場から 尾32 西上尾第二団地經由リハビリセンター行 7:22 発で「丸山公園入口」下車、徒歩約 4 分。

担当：近藤、秋葉、浅見(健)、浅見(徹)、大坂、柴田、立岩、千葉、永野、廣田、山野、吉原(早)

見どころ：早朝の静かな公園で、今季到着したばかりの冬鳥をさがします。去年はアトリの大きな群れが迎えてくれました。さて、今冬初お目見えの鳥はどんな鳥？

帰りのバス：12:43 発。お弁当を食べても時間はたっぷりです。

春日部市・内牧公園探鳥会

期日：11月5日(日)

集合：午前 9 時 15 分、アスレチック広場前・第一駐車場。

交通：東武 春日部駅西口、朝日バス③番乗り場 8:41 発春日部エミナース行きで「共栄大学入口」下車。西へ徒歩約 7 分。

担当：石川、菊川、佐藤、佐野、進士、野村、橋口、吉岡

見どころ：いよいよ冬鳥との再会の季節です。シロハラ、ツグミ、アカハラ、ジョウビタキ、タヒバリ、シメ、カシラダカを期待して雑木林、屋敷林、田んぼ、ハス池、草地を探鳥します(途中にトイレ休憩あり)。

帰りのバス：下車したバス停から、13:07、14:20 です。(9 月現在の時刻表による)

羽生市・羽生水郷公園探鳥会(平日)

期日：11月9日(木)

集合：午前 9 時、羽生水郷公園北駐車場。

交通：羽生市福祉バス手子林・三田ヶ谷ルート(ムジナもん号)で東武伊勢崎線 羽生駅東口 8:05 発、南羽生駅 8:22 発で、「キャッセ羽生・水郷公園」下車。

共催：羽生水郷公園管理事務所
担当：相原(修)、相原(友)、新井、植平、竹山、飛田、中川、茂木
見どころ：雪化粧の日光連山をバックに飛翔するタカ類、ヨシ原でのオオジュリンなどの小鳥類、池のヨシガモを一緒に探しましょう。
帰りのバス：下車したバス停から14:50発です。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：11月12日(日)
集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前。
交通：秩父鉄道熊谷 9:09 発、または寄居 8:50 発に乗車。
担当：榎本(秀)、新井、鶴飼、倉崎、田島、千島、飛田、中川、村上、茂木
見どころ：渡って来たばかりのツグミやジョウビタキを探しながら、いつもの林の小径を歩きましょう。カラスウリの実も真っ赤に色づいて、皆さんをお待ちしています。

さいたま市・見沼自然公園探鳥会

期日：11月18日(土)
集合：午前8時15分、JR大宮駅東口「こりすのトトちゃん」像前。または午前9時、見沼自然公園駐車場南側のベンチ付近。
担当：浅見(徹)、浅見(健)、柏瀬、河邊、工藤、小林(み)、野口、山田
見どころ：見沼自然公園とその周辺の農耕地や林で身近な野鳥を探します。途中のトイレ休憩は旧坂東家住宅(見沼くらしっく館)。公園のカモは、何種類？ 手の届きそうな距離で観察できます。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：11月18日(土) 午後3時～4時ころ
会場：会事務局 108号室

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：11月19日(日)
集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後路線バスで現地へ(ご注意：案内人は8時過ぎに北浦和駅東口到着予定です)。または午前9時、さいたま市立浦和

博物館前。
後援：さいたま市立浦和博物館
担当：青木、浅見(健)、浅見(徹)、楠見、小菅、小林(み)、須崎、新部、畠山、増田
見どころ：いよいよ冬本番。やはり鳥見は冬がよく見ることができます。これから3月までは冬鳥の季節でしょう。三室地区は基本的な鳥を見ることが出来、初心者(ビギナー)の方にも最適です。皆さまのお越しをお待ちしております。
お知らせ：「ビギナー探鳥会」を同時開催。

嵐山町・菅谷館都幾川探鳥会

期日：11月19日(日)
集合：午前8時35分、東武東上線武蔵嵐山駅西口。または午前9時15分、県立嵐山史跡の博物館駐車場。※博物館駐車場は博物館利用者専用ですので、駐車する場合は「蝶の里公園駐車場」にしてください。
交通：東武東上線川越 7:58 発、または寄居 8:02 発に乗車。
担当：千島、新井、今村、鶴飼、中村(豊)、松下、持丸
見どころ：雑木林を通り、都幾川沿いを歩きます。シメ、ツグミ、シロハラ、ジョウビタキ、アオジ、猛禽が飛び、川原でセキレイ達が飛び回っています。

本庄市・坂東大橋探鳥会

期日：11月23日(木・祝)
集合：午前9時20分、坂東大橋南詰近くの「つきみ荘」北側。
交通：JR高崎線本庄駅北口から国際十王バス 9:06 発伊勢崎行きで「坂東大橋南詰」下車。
担当：新井、鶴飼、小淵、倉崎、田島、千島
見どころ：秋空を舞う猛禽と、着いたばかりのカモに会いに行きましょう。ベニマシコやオオジュリンなど冬の小鳥にも期待です。
注意：石ころだらけで足場の悪い河原を歩きますので、足拵えはしっかりと。

志木市・柳瀬川探鳥会

期日：11月23日（木・祝）

集合：午前9時、東武東上線 柳瀬川駅西口、スーパーサミット前の円形広場。

担当：鈴木(秀)、佐久間、志村、神場、高草木、中村(治)、中村(祐)、藤澤、持丸、山口

見どころ：柳瀬川土手の右岸、左岸と水谷田圃を冬鳥のカモ類や猛禽を探しながら村山快哉堂まで歩きます。河岸ではサギ類やキセキレイに、中洲ではイソシギやイカルチドリに、出会えるでしょうか。

戸田市・彩湖探鳥会（平日）

期日：11月24日（金）

集合：午前9時10分、彩湖道満グリーンパーク中央駐車場。

交通：JR 埼京線武蔵浦和駅東口から、②番バス乗り場 8:16 発下笹目行きで、「彩湖・道満グリーンパーク入口」下車。直前の交差点まで戻り左折して土手を越える。

担当：小林(み)、石塚(敬)、石塚(真)、今村、新部

見どころ：この季節は、旅の途中にちょっと一休みしている鳥が多いようです。疲れがとれたら、さらに南へ…。渡りのロマンが感じられる晩秋の彩湖です。

宮城県・蒲生干潟~蕪栗沼探鳥会(中止)

期日：11月25日（土）~26日（日）

最少催行人数に達しなかったため、中止となりました。

狭山市・入間川定例探鳥会

期日：11月26日（日）

集合：午前9時、西武新宿線 狭山市駅西口。

交通：西武新宿線 本川越 8:42 発、所沢 8:39 発、に乗車。

解散：正午ころ、稲荷山公園。

担当：長谷部、石光、島崎、鈴木(秀)、高草木、中村(祐)、藤掛、星、水谷、山口、山本

見どころ：冬鳥のやってくる季節になりました。海を渡ってやってくる鳥、国内の北部や高い山から下りてくる鳥、長い旅をして

きた彼らを温かく迎えてあげましょう。

蓮田市・黒浜沼探鳥会

期日：11月26日（日）

集合：午前9時、環境学習館前。

交通：JR 宇都宮線蓮田駅東口から朝日バス 8:50 発国立東埼玉病院行で「新井団地」下車。バス停からご案内します。

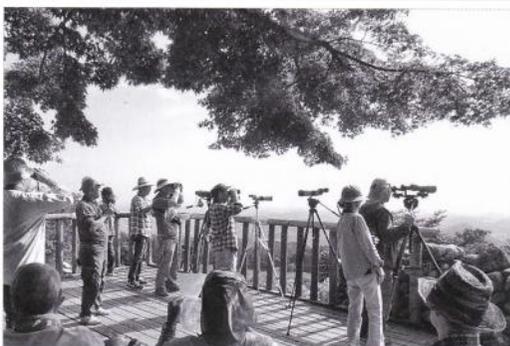
担当：小林(み)、青木、内田、榎本(建)、田中、玉井、長嶋、長野、菱沼(一)、菱沼(洋)、廣田、星野

見どころ：沼の周りのハスがなくなり、この夏はテレビでも話題になりましたが、これからの季節はどうなるでしょう？ シメやオオジュリンなどの冬鳥たちが穏やかに過ごせますように…。

ご注意：車で来られる方は、出発地点の環境学習館ではなく、北側に新しく出来た“緑のトラスト保全第11号地 黒浜沼駐車場”を利用してください（環境学習館まで徒歩1分）。

昨日も行ってきました

松井昭吾(さいたま市)



中間平へ通い詰めています。寄居のちょっと先です。数はあまり出ませんが、タカの渡りのカウントステーションとしては素晴らしいところ。自宅から片道52kmです。

今日はIさんをご案内しました。実はあまり飛ばなかったのですが、ここは初めてのIさんは大いに喜ばれ、私も嬉しく思いました。でも、チゴハヤブサ、ハヤブサが飛び、今シーズン中最大の26羽のサシバのタカ柱などのハイライトがありました。



行事報告

1月8日(日) 松伏町 まつぶし緑の丘公園

参加: 31名 天気: 曇

ヒドリガモ マガモ カルガモ ハシビロガモ
コガモ ホシハジロ キンクロハジロ ミコアイ
サ カイツブリ カンムリカイツブリ キジバト
カワウ アオサギ ダイサギ コサギ バン オ
オバン イカルチドリ コチドリ タシギ イソ
シギ セグロカモメ オオタカ ノスリ カワセ
ミ チョウゲンボウ モズ ハシボソガラス ハ
シブトガラス シジュウカラ ヒヨドリ ウグイ
ス メジロ ムクドリ アカハラ ツグミ ジョ
ウビタキ スズメ ハクセキレイ セグロセキ
レイ アトリ カワラヒワ シメ ホオジロ ホオ
アカ カシラダカ アオジ (47種) (番外: ドバ
ト) 毎年来てくれるミコアイサは雌のみ、しか
し、当地初認のカンムリカイツブリを見ることが
できた。今回は一部公開された築山に上ること
にした。周りに高い場所がないので、公園近辺の俯
瞰展望が素晴らしかった。冬の小鳥も多く、終わ
ってみれば47種とこれも記録だった。(橋口長和)

2月26日(日) 群馬県 小根山森林公園

参加: 47名 天気: 晴

キジバト トビ オオタカ コゲラ アカゲラ
アオゲラ ハシブトガラス コガラ ヤマガラ
ヒガラ シジュウカラ ヒヨドリ エナガ ミソ
サザイ ルリビタキ カヤクグリ スズメ キセ
キレイ ハクセキレイ セグロセキレイ アトリ
カワラヒワ マヒワ ホオジロ カシラダカ ミ
ヤマホオジロ アオジ クロジ (28種) 今年も
「雪がない」。集合した時にオオタカが現れて期
待したが、森林公園までは余り鳥が現れず、山吹
の郷でも園内をきれいにしたため、ベニマシコの
姿は見られなかった。森林公園では餌台に来たミ
ヤマホオジロを見られた。今年も公園職員の方が
暖かいナメコ汁で歓迎してくれた。(入山 博)

3月19日(日) さいたま市 三室地区

参加: 51名 天気: 晴

キジ オカヨシガモ カルガモ コガモ キジバ
ト カワウ アオサギ ダイサギ バン オオバ
ン コチドリ タシギ イソシギ セグロカモメ
カワセミ アカゲラ コゲラ チョウゲンボウ
モズ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス
シジュウカラ ヒバリ ヒヨドリ メジロ ムク
ドリ ツグミ スズメ ハクセキレイ セグロセ
キレイ アトリ カワラヒワ ホオジロ (34種)
(番外: ドバト) 芝川を渡ったところで「アカ
ゲラだ!」左岸の低木にとまっている。発見者は
会員になったばかりのN氏。三室の鳥の神サマが、
人会のお礼にプレゼントしてくれたのかな? ほぼ
全員がゆっくり観察できた。サンシュユや桃の花
が咲き、華やかな農耕地を期待していたが、いま
いち寂しい。春の歩みが遅いのだろうか。新宿橋
から観察すると、浅瀬にコチドリ、イソシギ、タ
シギ。ここでシギ・チドリ類がこんなに見られる
のは、久しぶりのような気がする。(小林みどり)

3月20日(月、祝) 栃木県 日光東照宮裏山

参加: 41名 天気: 晴

キジバト トビ ノスリ クマタカ コゲラ オ
オアカゲラ カケス ハシボソガラス ハシブト
ガラス キクイタダキ コガラ ヤマガラ ヒガ
ラ シジュウカラ ヒヨドリ エナガ メジロ
ゴジュウカラ ミソサザイ カワガラス ジョウ
ビタキ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキ
レイ カワラヒワ マヒワ ウソ ホオジロ (28
種) 受け付け開始早々に鳴虫山の上空にクマタ
カ出現! 大谷川では、カワガラスとミソサザイが
大サービス。往路は久しぶりに寺社周遊コースを
開山堂まで。これが大正解で、ウソ♂2、♀2。
稲荷沢に出た所で、オオアカゲラを全員で観察。
復路は全行程を稲荷沢コース。ここでもミソサザ
イの囀りと姿を堪能。(浅見 徹)

3月20日(月、祝) 坂戸市 高麗川

参加: 16名 天気: 晴

キジ オンドリ カルガモ コガモ カイツブリ
キジバト カワウ アオサギ ダイサギ オオバ
ン イカルチドリ コチドリ トビ カワセミ
モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュ
ウカラ ヒヨドリ ウグイス ムクドリ ツグミ
ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ セグロセ
キレイ カワラヒワ シメ イカル ホオジロ

カシラダカ アオジ (32種) (番外: ドバト、ガビチョウ) 昨年3月は多和田橋から多和田天神橋間が「高麗川 川まるごと再生プロジェクト」の遊歩道工事で通常コースを歩けず迂回となった。今回は城山橋上流が工事中で、コースを短縮して城山橋までのコースとなった。多和田橋付近にオシドリがいて幸先良いスタート。コチドリも数羽、イカルチドリと一緒にいる場面もあり、違いがよくわかった。イカル、常連のカワセミもいて短縮コースにしてはまずまずの結果。(山口芳邦)

3月23日(木) 羽生市 羽生水郷公園

参加: 41名 天気: 曇

ヨシガモ マガモ カルガモ ハシビロガモ コガモ カイツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ コサギ クイナ バン オオバン コチドリ トビ コゲラ アカゲラ チョウゲンボウ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ヒヨドリ ウグイス メジロ ムクドリ シロハラ アカハラ ツグミ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ カワラヒワ ベニマシコ シメ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン (41種) 湿地ではクイナ、池では水面近くでアオサギが営巣、ヨシ原ではオオジュリンやベニマシコが姿をみせる。コチドリの声はしたが姿は見られず。ヨシガモとハシビロガモは残っているが他のカモは殆ど帰った。ここで初記録となるアカハラも現れた。(相原修一)

3月25日(土) 秩父市 秩父ミュージアムパーク

参加: 55名 天気: 晴

カルガモ キジバト カワウ ダイサギ トビ ノスリ コゲラ アオゲラ チョウゲンボウ ハシボソガラス ハシブトガラス ヤマガラ ヒガラ シジュウカラ ツバメ イワツバメ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ シロハラ ツグミ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ アトリ ベニマシコ ウソ シメ イカル ホオジロ カシラダカ アオジ (33種) (番外: ガビチョウ) 序盤は鳥の姿がなかなか見えずに苦戦する。その後アオゲラのオスが遠くの枝にじっと止まっている姿を全員で観察。昼食時にはシロハラやイカルがほとんど移動せずに採食しているところもゆっくり見ることができた。展望台で武甲山をバックにチョウゲンボウやツバメ、イワツバメが飛翔す

る風景を堪能し、帰途にはベニマシコのペアも観察できた。鳥の数は少なかったが、好天に恵まれて、のんびりと散策を楽しみながら秩父の春を満喫することができた。(長野誠治)

3月26日(日) 加須市 渡良瀬遊水地

雨のため中止。

(佐野和宏)

3月26日(日) 狭山市 入間川

雨のため中止。

(長谷部謙二)

4月1日(土) 松伏町 まつぶし緑の丘公園

参加: 20名 天気: 小雨

マガモ カルガモ コガモ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ バン オオバン トビ ハシボソガラス ハシブトガラス ヒバリ ツバメ ヒヨドリ ウグイス ムクドリ ツグミ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ オオジュリン (22種) (番外: ドバト) 初企画「写真探鳥会」。まずはレクチャールームで会員2名による撮影マナーとテクニックの講習。その後、公園内で探鳥しながら1時間ほどの撮影会。生憎の小雨の中、そして飛び回るツバメなどの難しい被写体が多かったが、いい写真が撮れたようだ。(佐野和宏)

4月2日(日) 北本市 石戸

参加: 59名 天気: 晴

コジュケイ キジ マガモ カルガモ コガモ キジバト カワウ アオサギ クイナ バン トビ オオタカ サシバ ノスリ カワセミ コゲラ アオゲラ モズ カケス ハシブトガラス シジュウカラ ツバメ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ シロハラ ツグミ ジョウビタキ スズメ アトリ ベニマシコ シメ ホオジロ アオジ (35種) (番外: ドバト、ガビチョウ、ソウシチョウ) お花見探鳥会。開花が遅れていたお蔭でエドヒガンザクラの満開が見られた。桜堤は二分か三分咲き。メジロが集って盛んに蜜を吸っていた。蒲ザクラは10輪程度の開花。鳥は、開始前にオオタカの飛翔。思い出橋からジョウビタキ、ツグミ、シメなど。アオゲラのドラミングと啼き声が響く。児童公園への橋の横でアオジをじっくり観察。東屋近くでベニマシコの声。また、サシバやツバメの夏鳥を確認した人も。4月は季節の交差点。(吉原俊雄)



● 谷中湖の水位低下、今年度は例年通り

前月号本欄でお知らせした谷中湖の水位低下につき、利根川上流河川事務所管理課(0480-52-3957)によれば、今年度工事は延期され、干し上げは例年通りになるとのことです。

● ワイルドバードカレンダー2018 発売

全国から寄せられた 1,901 点の力作の中から 12 点を厳選したカレンダーです。一般価格税込 1,512 円、会員価格税込 1,296 円のところ、埼玉会員価格税込 1,290 円。売れ残りが出ないように数を抑えて仕入れますので、探鳥会などで見かけましたら、早めにお求めください。



卓上カレンダー パーズ・イン・シーズンズ 2018 (税込 1,080 円)、しあわせことりカレンダー2018 (税込 1,080 円) もあります。

● 『新 日本の探鳥地 首都圏編』 発売

かねてからご紹介していた(株)文一総合出版「BIRDER 編集部」編の探鳥地ガイドがいよいよ発売されました。関東地区1都6県の92カ所を紹介。埼玉県では13カ所を12人が執



筆。A5版192ページで、税込2,052円。

● 会員数は

10月1日現在 1,675人です。

活動と予定

● 8-9月の活動

8月22日(火) さいたま市さぎ山記念館会議室で開催された「見沼・さぎ山交流ひろば」今年度第2回運営委員会に出席(小林みどり)。シーズン企画および秋フェスについて検討。写真コンクール応募作の審査。

9月9日(土) 10月号校正(海老原教子、海老原美夫、大坂幸男、小林みどり、佐久間博文、志村佐治、長嶋宏之)。

9月17日(日) 役員会(司会:海老原美夫、11月に千葉市で開催される全国総会への参加者・その他)。

9月19日(火) 『野鳥』誌を購読しない会員向け、『しらこぼと』10月号を郵便局から発送(海老原美夫)。

● 10月の予定

11月4日(土) 編集部会。普及部会。

11月11日(土) 12月号校正(午後4時から)。

11月18日(土) 袋づめの会(午後3時から)。

11月19日(日) 役員会(午後4時から)。

編集後記

自宅から近い探鳥会に参加すると、次の日に「一人探鳥会」をしている。リーダーが説明した「下見では〇〇がいました」や「去年はここで～」等々に出会えることがよくある。分からなかった植物も図鑑で確認できる。自分にとっての初めての発見もある。(山部)

しらこぼと 2017 年 11 月号(第 404 号) 定価 200 円(会員の購読料は会費に含まれます)
 発行人 海老原美夫 編集発行 日本野鳥の会埼玉 (〒330-0064 さいたま市浦和区岸町
 4丁目 26 番 8 号 プリムローズ岸町 107 号) TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460
 郵便振替 00190-3-121130 http://www.wbsj-saitama.org 事務局 office@wbsj-saitama.org
 編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 編集部への野鳥情報 toridayori@hotmail.com
 住所変更退会などの連絡先は 〒141-0031 品川区西五反田3丁目9番23号 丸和ビル
 (公財)日本野鳥の会会員室 TEL03-5436-2630 FAX03-5436-2635 gyomu@wbsj.org
 本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断
 転載は、かたくお断りします。 印刷 関東図書株式会社